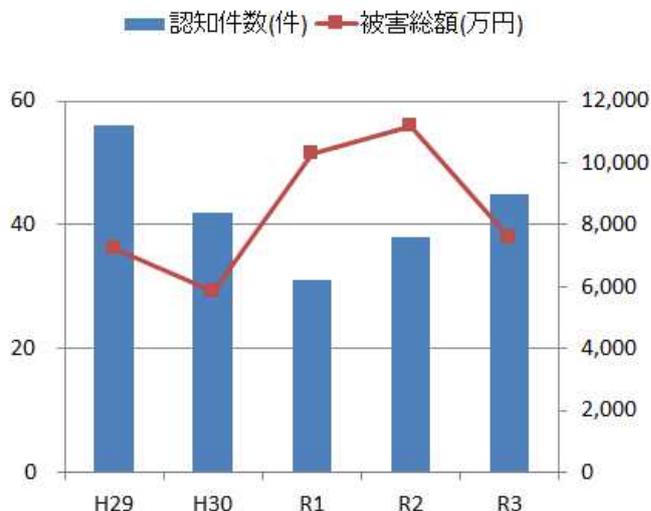


令和3年中における特殊詐欺の認知・検挙状況について（確定値）

1 県内の認知状況

(1) 認知状況の推移

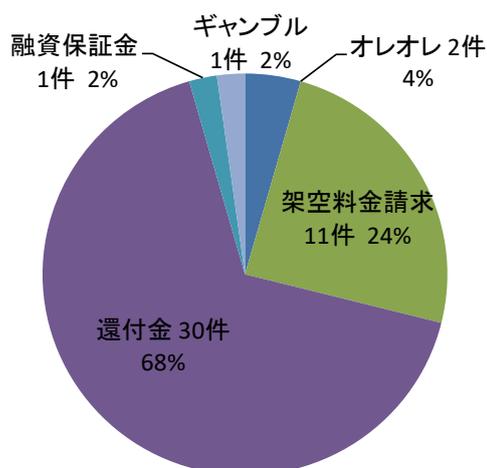


	H29	H30	R1	R2	R3
認知件数(件)	56	42	31	38	45
被害総額(万円)	7,233	5,850	10,280	11,174	7,584

※ 平成31年から、認知件数・被害額には窃盗（キャッシュカード詐欺盗）を含む。

○ 昨年と比べて認知件数は増加したが、被害額は減少した。

(2) 手口別の認知状況

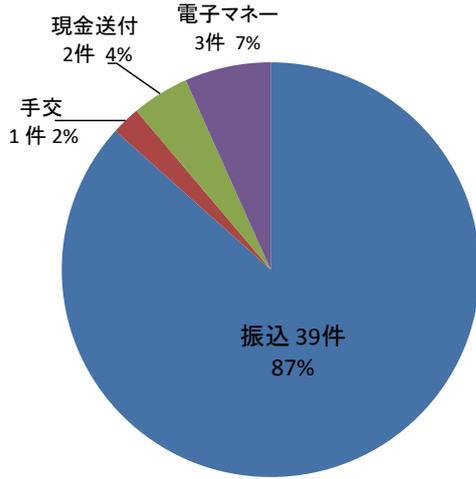


	R2	R3	前年比
オレオレ	0	2	-2
預貯金	10	0	+10
架空料金請求	14	11	-3
還付金	1	30	+29
融資保証金	5	1	+4
キャッシュカード詐欺盗	4	0	-4
その他	4	1	+3
計(件)	38	45	+7

○ 還付金詐欺の認知件数が最も多い。（全体の約7割）

○ 令和2年から、オレオレ詐欺の手口が細分化され、預貯金詐欺の分類ができたもの。（細分化の詳細については「特殊詐欺の手口について」を参照）

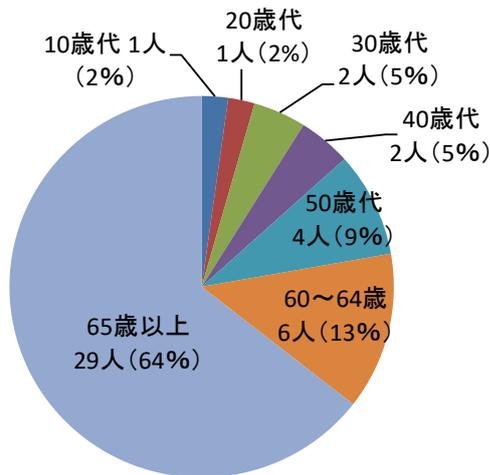
(3) 交付形態別



	R2	R3	前年比
振込	12	39	+27
手交	11	1	-10
現金送付	3	2	-1
電子マネー	8	3	-5
キャッシュカード窃取	4	0	-4
合計(件)	38	45	+7

○ 振込型が最も多い。(全体の約9割)

(4) 被害者の年齢



年代	R2		R3		前年比
	男	女	男	女	
10歳代	0	0	1	0	+1
20歳代	2	0	0	1	-1
30歳代	1	0	0	2	+1
40歳代	1	2	0	2	-1
50歳代	4	4	1	3	-4
60~64歳	1	1	1	5	+4
65歳以上	4	18	2	27	+7
合計(人)	13	25	5	40	+7
	38		45		

○ 65歳以上の高齢者の被害者が最も多い(全体の64%)

2 県内の検挙状況

区分	H29	H30	R1	R2	R3	前年比
検挙件数(件)	114	7	25	36	10	-26
検挙人員(人)	7	3	9	8	4	-4

○ 平成31年から、検挙件数・人員には窃盗(キャッシュカード詐欺盗)を含む。